

2010年
8月号

Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～

フワリの
コーリーとわたりーとわい。



Mini-WANとは

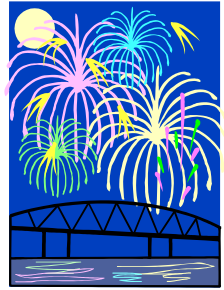
港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■最近のトピックス

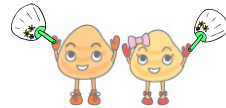
- 第4回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会を開催 ○水辺クリーンアップ大作戦
- 平成22年度 優良工事・業務事務所長表彰の授与式がおこなわれました
- アクアフェスタ2010 ○平成22年度愛知県港湾協会通常総会
- 高浜の干潟の生き物調査
- 渡し場かもめ会中川会長、「みなとまちづくりマイスター」に認定されました
- 「夏休み水の教室」が開催されました ○ふるさとワクワク体験塾が開催されました

■編集後記



☆最近のトピックス☆

○第4回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会を開催



7月28日、第4回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会（事務局：三河港湾事務所）を開催しました。三河湾部会においては、伊勢湾再生海域推進プログラム（平成20年3月）に位置づけられた「多様な生物がいきづくうみの保全」に向け、三河湾において大きな懸念材料である「貧酸素水塊」の抑制に効果が期待できる方策等について検討を進めるものです。
(注1)

部会長である中田教授（東海大学海洋学部）の議事進行のもと、事務局から提案した「数値シミュレーションによるシーブルー事業の評価」及び「深掘跡修復実証実験の概要」に対する活発な意見・議論が交わされました。委員の方から、「数値シミュレーションの計算結果が専門的すぎてわかりづらい。誰が見てもわかりやすい資料づくりを。」とのご意見をいただきました。今後、事務局としましては、今まで以上にわかりやすい資料づくりに取り組んでまいります。また、深掘跡修復実証実験につきましては、実施する方向で承いただきました。今後はしっかり関係者と協議・調整しつつ、施工に向けて具体化していくこととなります。



三河湾部会の様子

次回の開催は10月下旬を予定しています。

(注1)

貧酸素水塊（ひんさんそすいかい）：海中の酸素がほとんどなく魚類が生息できない水域の事を言います。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)211-2311 FAX(0569)211-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp



おいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの「海とみなとの相談窓口」につながります。

○水辺クリーンアップ大作戦

7月17日、半田市の衣浦港中央ふ頭西地区と亀崎海浜緑地において、今年で7回目となる半田市民憲章実践協議会の主催の、「水辺クリーン・アップ大作戦」と題したゴミ拾いによる清掃活動が行われました。梅雨が明け快晴となり大変暑い中、半田市民を中心に参加者は約1400人でした。当事務所からも2人が参加しました。子供を連れた家族などの参加者も多数見られ、約1時間の清掃作業でしたが、港周辺の美化に励んでいました。

回収されたゴミには、前日までの荒天で海から岸壁に打上げられたゴミのほか、周辺の道路や岸壁・公園などに捨てられていた吸殻やペットボトルなど心掛け一つで減らせるゴミが多かったので、日頃から自分のゴミはもちかえるように気をつけましょう。



清掃活動の様子



○平成22年度 優良工事・業務事務所長表彰の授与式がおこなわれました



当事務所長と受賞された皆さん

7月23日、優良工事・業務事務所長表彰及び関係協力会社事務所長表彰が衣浦港事務所の会議室にて行われました。

この表彰は、成績優秀な工事・業務及び各技術者を表彰し、また、その工事の関係協力会社（専門技術を持つ技能労働者を抱えた下請業者）も表彰するものです。

今年授賞されたのは、工事部門で「平成21年度衣浦港中央ふ頭東地区岸壁（一12m）改良工事」を担当した高砂建設（株）名古屋支店とその協力会社の（株）橋本潜水興業です。業務部門では、「平成20年度環境改善試験工区環境追跡調査」を担当した国際航業（株）名古屋支店です。

3社には、当事務所長より表彰状が授与されました。

○アクアフェスタ2010



当事務所のブース

7月25日、豊橋市上下水道局において「アクアフェスタ2010」が開催されました。このイベントは、水に関する様々な展示物を通じて、水の大切さを再認識してもらおうと毎年開催されている催しです。当事務所では「三河湾浄化コーナー」と題し、当事務所のシーブルー事業を紹介するパネルの展示とアサリの水質浄化実験装置を展示しました。^(注2)

アサリの水質浄化実験装置では水が浄化されていく過程を3つの装置に分けて展示しました。実際に水が浄化されていく過程を多くの来場者の方が観察し「アサリがこんな浄化機能を持っているなんて初めて知った」という驚きの声が多数聞かれました。

また、当事務所のシーブルー事業についても興味を示される方が多く、三河湾において様々な事業が行われ海域の環境が改善されているとは知らなかった」と驚かれる方が多くいました。

当日は、夏休み最初の日曜日であり厳しい暑さにもかかわらず親子連れを中心に約2500人が来場し、当事務所のブースへは約250人が訪れてくれました。



会場の様子

(注2) シーブルー事業（海域環境創造事業）とは、閉鎖性海域における水質・底質の改善を図るため、航路、泊地の浚渫事業等で発生する良質な土砂を活用した汚泥上への覆砂などの取り組みです。

○平成22年度愛知県港湾協会通常総会

8月4日、名古屋ガーデンパレスにて平成22年度愛知県港湾協会通常総会が開催されました。

8月3日に「三河港」「衣浦港」が、「新規の直轄港湾事業の着手対象となる港湾」として選定されたこともあり、和やかな雰囲気での議事進行しました。愛知県港湾協会の禰宜田会長（碧南市長）は冒頭の挨拶で選定



平井所長による講演

されて一安心とするも、地震・津波等の災害対策や耐震強化岸壁、臨港道路の耐震化等今後の港湾事業の必要性について訴えていました。

また、総会の議事に入る前に当事務所長より、三河港・衣浦港それぞれの近況報告・今後の役割および港湾に関するトピックス等を紹介しました。会員の皆さんは講演を聞きながら、改めて三河港・衣浦港が選定されたことを実感されているようでした。



おどた
禰宜田会長によるあいさつ

○高浜の干潟の生き物調査

7月25日、高浜市の特別養護老人ホーム安立荘あんりゆうそうの南側の海岸で、「高浜の干潟の生き物調査（主催：渡し場かもめ会 後援：高浜市教育委員会）」が開催されました。

主催者である「渡し場かもめ会」は、高浜市で活躍されているボランティア団体で、1956年に衣浦大橋が開通するまで、生活物資、人的交流手段として重要な役割を果たしていた渡し船「藤江の渡し」を後生に語り継ぐ取り組みを行っており、毎月1回衣浦港周辺の清掃活動をはじめ、水質調査や小学生を対象とした環境教室、また、郷土の歴史である芦川渡し場まつり（多くの花嫁が、かつて藤江の渡しを利用していた故事にちなんだ嫁入り船の再現や団子のふるまいなどを行なうお祭り）の開催などを年間通じて精力的に実施されています。

この調査に当事務所からは3人の職員が参加しました。参加者と一緒干潟の生物を調査し、マメコブシガニ等のかにかに類やシジミ、シオフキ、ソトオリガイ等の二枚貝類を捕獲・観察しました。特に、マメコブシガニはカニとしては珍しく前方向に動くことができるので、その動きを見た参加者は「すごい〜」「珍しい〜」等歓声をあげていました。

調査が終わったあとは、捕獲した生物の解説と水質浄化が期待できるアサリの生態等を三河港湾事務所職員が説明し、アサリをはじめとする多様な生物が生息できる環境を取り戻すことが重要であることを認識していただいた観察会となりました。



干潟の生物観察の様子

○渡し場かもめ会中川会長、「みなとまちづくりマイスター」に認定されました



中川会長と港湾局長

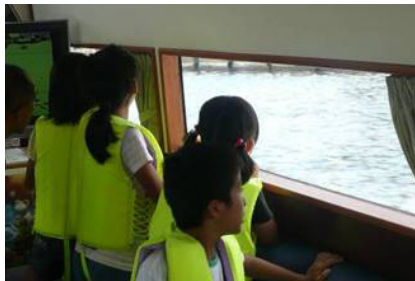
8月4日、市民ボランティア団体渡し場かもめ会会長中川庄嗣さんが、「みなとまちづくりマイスター」に認定され、国土交通省港湾局長から、これまでの功績をたたえ、表彰を受けられました。「みなとまちづくりマイスター」は、みなとまちづくりを通じて地域の賑わいの創出や地域の活性化などの成果が得られた事例において中心的な役割を担った方の中から、他の模範としてふさわしい方を毎年1回、社団法人ウォーターフロント開発協会が有識者からなる第三者委員会の選定を経て認定するもので、平成20年度に創設されており、今年が3回目の認定となっています。今年も中川会長をはじめ、全国から6名の方々が認定を受けています。

今回、これまでの活動の成果が評価され、認定の運びとなりましたが、地元を愛する地道な活動が評価されたことは、中川会長をはじめ渡し場かもめ会メンバー皆さんの努力の賜であり、今後の同様な活動の励みになるものと思っています。また、みなとや海辺を利用した活動の輪がこれをきっかけに広がっていくことをとても期待しています。

〔「みなとまちづくりマイスター」に関する詳細は、（社）ウォーターフロント開発協会ホームページ <http://www.waterfront.or.jp/> でご覧いただけます。〕

○「夏休み水の教室」が開催されました

8月6日、豊橋市上下水道局の主催（協力：三河港湾事務所及び愛知県三河港務所）で「夏休み水の教室」が開催されました。当教室は小鷹野浄水場、中島下水処理場の見学と船上から三河港の水質観察等を行い、水資源・水環境の保全の必要性を総合的に理解してもらうことを目的として毎年開催されています。



船内の様子

当日は、小学校4年生から6年生までの児童とその保護者が2グループに分かれて当事務所の港湾業務艇「しおさい」と愛知県三河港務所の「みかわ」に乗船。三河港の水を観察したり、航行する大型の自動車運搬船等を眺めて歓喜していました。また、防波堤や岸壁の役割についての説明に熱心に耳を傾けていました。

皆さんが使用した水は川を流れて、いずれはこの三河湾に流れ込みます。三河湾を生物がたくさん住める豊かな海にするために何が出来るのか。子供たち一人一人が考えた1日になったと思います。

○ふるさとワクワク体験塾が開催されました

8月7日、幡豆町教育委員会の主催で「第4回ふるさとワクワク体験塾」が開催されました。「ふるさとワクワク体験塾」とは幡豆町の小学生を対象に、幡豆町にある豊かな自然の中で、それぞれの季節感を味わいながら、年間全10回にわたり、草花・樹木・生き物などの観察及び自然を生かした様々な体験活動を行うものです。

今回は、東幡豆海岸での自然観察と東幡豆港港内見学を実施。当事務所から、港湾業務艇「しおさい」を派遣して港内見学のお手伝いをしました。海上から見た幡豆町の自然、みなとの様子等を見学してもらいました。

また、東幡豆海岸での自然観察ではマテガイの採取に人気が集まっています。マテガイが潜んでいそうな穴に塩を振りかけ、マテガイが飛び出してくると子どもたちから大きな歓声があがっていました。

自然観察、港内見学ともに子供達にとって貴重な夏の体験となったと思います。



東幡豆海岸での観察の様子

☆編集後記☆

お盆休みはほぼ終わり、子ども達の夏休みも後半に突入してしまいました。「子ども達は、元気に野山を駆け回るもの。」というのが、自分が子どもの頃の夏休みの常識でした。しかし、今の時代は夏でも室内でテレビゲームやパソコンで遊ぶ子ども達が多いそうですね。

この季節になると「山川は国の本（もと）なり。」という江戸時代の儒学者、熊沢蕃山の言葉を思い出します。

この三河地方は、子ども達が駆け回る海や川、野山がまだたくさん残っていることが、とても幸せな事だと改めて感じます。



三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>